審議会等の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	第12回 立川市地域福祉推進委員会・第5次立川あいあいプラン21 推進委員会 合同会議（オンライン開催）
開催日時	令和5年2月17日（金曜日）午後1時00分～3時00分
開催場所	オンライン会議、立川市総合福祉センター（2階 視聴覚室）
次第	1. 委員長あいさつ 2. 前回のふりかえり 3. 令和4年度地域福祉ウォッチャー調査の報告について 4. 中間評価の確認について 5. 今後のスケジュールについて
配布資料	1. 第12回議事次第 2. 令和4年度地域福祉ウォッチャー調査 3. 中間評価・地域福祉推進のための4つの要件（委員意見反映） 4. 重点推進事項評価表（委員意見反映） 5. アンテナショップ意見（8つのポイント） 6. 計画推進スケジュール 7. 委員意見集約表 8. アンテナ意見ポイント
出席者	[委員] 熊田博喜（委員長）、宮本直樹（副委員長）、井村良英、菅根浩子、 小澤清富、藤原紀子、渡邊明日香、野々久美子、宮崎彩乃 [事務局] <立川市> 高橋知宏（地域福祉推進係長）、石丸亮太（地域福祉推進係） <立川市社会福祉協議会> 山本繁樹（地域活動推進課長）、柳澤実（地域づくり係長）、 小林理哉、高橋美季、内金崎快、吉田理恵（地域づくり係）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果	以下の通り
その他	以下の通り
担当	立川市社会福祉協議会 地域活動推進課 地域づくり係 電話 042-540-0200（代表）

主な意見、質疑応答

【1. 委員長あいさつ】

委員長よりあいさつがあった。

【2. 前回のふりかえり】

資料1にもとづき、前回委員会の振り返りを行った。

<事務局（市）>

- ・評価を行うにあたり、量だけでは判断できないため「質」や「プロセス」にも着目する必要があることを確認した。
- ・市評価について、孤立をのぞまない人の孤立防止、人材育成、重層的支援体制整備事業の中の参加支援について課題が挙げられている。
- ・社協評価について、アンテナショップへの意見が主であり、具体的には、多世代交流、多機能拠点としての参加者の裾野の広がり、テーマ設定を行う、当事者性を打ち出して展開する、テーマを絞ると多様性は難しいという意見があった。
- ・高齢化が進み活動がままならない状況もある。

<委員長>

- ・中間評価というと目標達成できていない部分に焦点を当てがちであるが、何が進んでいるのかを確認して、すでに達成されている部分を確認することも大切である。

【3. 令和4年度地域福祉ウォッチャー調査について】

資料2に基づき、事務局より調査の報告を行った。

<委員長>

- ・ウォッチャー調査をどのように活用していくのか。

<事務局（市）>

- ・結果を各所に報告して、資料として活用していく。
- ・結果を踏まえて次期地域福祉計画の策定を行う。

<委員長>

- ・全体として令和2年が底になっている傾向がある。
- ・回復がうまくいっているところ、いっていないところを注視する必要がある。
- ・ウォッチャー調査は経年的にみていくことがポイントである。
- ・次期地域福祉計画の策定においても重要なデータになるので確認をお願いしたい。

【4. 中間評価の確認について】

資料3・4にもとづき、中間評価・地域福祉推進のための4つの要件および重点推進事項評価表の説明を行った。

〔(1) 4つの要件に関する評価（市・社協）〕

<委員長>

- ・立川市の「地域福祉推進のための4つの要件」については、孤立を望まない方の孤立防止をすすめていくことがポイントとなる。
- ・社会福祉協議会の「地域福祉推進のための4つの要件」については、地域福祉アンテナショップの展開がポイントとなる。
- ・中間年のまとめになるので、計画を進める中で以下①～④がどれだけ充実してきたかがポイントとなる。
 - ① 地域に参加する人の裾野が広がったか
 - ② 多様な人が集まることのできる場が創出されたか
 - ③ 地域福祉、地域活動の担い手（リーダーやコーディネーター）の発掘や支援ができたか
 - ④ 地域住民と関係機関の連携・協働は進んだか

〔(2) 重点推進事項に関する評価〕

①まるごと相談支援について

<事務局>

- ・伴走支援の必要性の普及はこれからであり、時間がかかると認識している。
- ・相談により解決するだけでなく、支援者と一緒に考える、複数の相談者が互いに相談し合える関係が必要である。
- ・近隣市との連携が必要な取り組みも出てくるのではないかな。

<委員長>

- ・まるごと相談支援は重点推進事項の中の一つで重要であり、柱である。
- ・3年間で取り組みを進めていく中で支援者をはじめ多くの市民に理解と協力を得るためにはどのような普及啓発の手法が効果的なのか具体的な意見、アイデアをいただきたい。

<委員>

- ・伴走支援という言葉に対する理解や協力を得ていくというよりも、実際に伴走支援をしている人を増やしていくことで理解と協力が広がっていくのではないかな。
- ・実際に伴走支援に取り組んでいく人はいるので、それを目立つような形で発信して、後援者、参加者を増やしていく、広げていくのはどうか。

- ・チャットによる情報提供：愛知県春日井市の15分のフレックスカフェ
→15分という短い時間から働けるため、伴走支援につながるのではないかと。

<委員長>

- ・立川でも実際に伴走支援に取り組んでいる人もいますので、それを見える化し、具体的な事例として発信していく必要があるのではないかと。

<委員>

- ・障害分野はネットワークがなく、相談を次につなげていくのが難しい現状がある。
- ・相談を受けても個の課題が地域の課題としてつながらない。
- ・関係機関同士のつながりについて、具体的に見える化されているリスト等があれば意識して伴走支援を行う人が増えるのではないかと。
- ・事業所だけでなく民間もやっていることで、リストアップしてそのつながりを見える化するとより多くの人の伴走支援につながるのではないかと。

<委員長>

- ・具体的に見える化していくというのがポイントである。
- ・「伴走支援」や「重層的支援体制整備事業」は抽象的でわかりにくく曖昧であるので、伴走支援の具体例、関係機関、団体、事業所同士のつながりを見える化し、発信していくことが伴走支援の理解を得ていくことにつながる。
- ・まるごと相談支援については伴走支援をどのように広げていくのかを委員から意見をいただいたため、その意見を意識して進めていければよいのではないかと。

②地域福祉コーディネーターの活動強化について

<事務局>

- ・意見をいただきたいポイント
→地域福祉コーディネーターの活動は多岐にわたり、抽象的な活動をしている。地域福祉コーディネーターの活動や役割を見える化していくためには具体的にどのようなことを行えばいいかと。

<委員>

- ・自分たちの活動だけだと、周りにどのような活動や団体があるのか、どのような人たちとつながればいいのかかわからないので、現存の団体を図式化してほしい。
- ・各地域でも、つながりの図式化を進めてほしい。

- ・どこに相談したらいいのかわからないことがあるので、自分たちと同じような活動をしている団体は、どこに相談しているのかを知ることのできる資料がほしい。

<委員長>

- ・地域にある社会資源を見える化する。
- ・マッピングしていくときも住民を巻き込んで行うことにより意識化できる。
- ・それぞれの地区でできることから進めていけばいいのではないかな。

<委員>

- ・まちなつとは地域福祉コーディネーターの活動を知るうえで良いツールである。

<委員長>

- ・紙ベースの情報紙は大事である。
- ・見える化する際に、誰に対しての情報発信なのかを意識する必要がある。
例) 紙媒体での情報発信はインターネットが得意ではない人をターゲットにしているの、そのような方にはどのような情報を提供したらいいか検討する。
- ・情報の精査が大切ではないか。
- ・同じものを配るのだけではなく、戦略的に載せる情報を変える方法もあるので見える化の次の段階として意識できれば良いのではないかな。

<委員>

- ・良い活動をしているが、核になって活動している人とつながっていない現状があるため、核になるところにまずは理解を広げていくことが大事なのではないかな。

<委員>

- ・会議の場では、立川市のような様々な団体が出席しているが、各団体の活動内容を具体的に知らないという実態がある。
- ・会議の場でPRしていく、手を挙げて会議の内容と自分の活動を紐づけて発言していくことが必要ではないかな。

<委員長>

- ・地域の中で活動している団体がつながるためには、互いに知り合うことが必要である。
- ・会議の場にコーディネーターが出て、その場でわかりやすく伝える方法もある。
- ・地域福祉コーディネーターは多様なことを行っている業務特性上、抽象的な説明

になることもあるが、コアなところが抜け落ちてしまうことを防ぐためには具体的な説明も必要である。

③地域福祉アンテナショップの設置について

<事務局>

- ・地域福祉アンテナショップの設置について以下のような課題がある。
 - ・新しい協働型地域福祉アンテナショップの設置が進んでいない。
 - ・協働型地域福祉アンテナショップの認定を市から受けた際に何かしらの金銭的な補助等がない状況である。
 - ・地域福祉アンテナショップ 設置に向けた取り組み、情報提供を行う上で「メリット」がないため情報提供をしていくことのハードルが高い。
- ・協働型地域福祉アンテナショップの支援方法について、以下8つの項目を中心に意見をいただきたい。
 1. 新しい住民層の取り込みについて
 2. 気楽に立ち寄れる導線上の工夫、福祉感を出さずに立ち寄れる工夫について
 3. 空き家情報、公的施設の活用について
 4. 協働型の促進方法について
 5. 地域の特性を生かした運営について
 6. 交流が生まれる仕掛けの工夫について
 7. 農福連携の工夫について
 8. 活動者の「やらなければのプレッシャー」について

<委員>

- ・活動したい人はいるけれど、実行に移すのが難しい現状があるため今ある活動を利用するのがいいのではないか。
- ・今あるもの（団体・活動等）にアプローチをして、イベントから始めていくのはどうか。

<委員長>

- ・協働型地域福祉アンテナショップはこれをしなければいけないという決まりはない。
- ・全部型地域福祉アンテナショップではないので、イベント的な展開も一つの方法として考えられる。

<委員>

- ・協働型地域福祉アンテナショップに登録した団体から、保険料も自分で払わなければならない、アンテナショップに登録したメリットがなかったという意見があった。→こういう状況では地域の方々をその気にさせることはできない。
- ・保険料の補助をはじめ、事故があったときの対応は考えていくべきではないか。
- ・地域福祉コーディネーターが市民と盛り上がっていくための武器が少ないのではないか。
- ・市民の意欲に頼るだけではいけない。
- ・既存のグループを協働型地域福祉アンテナショップに登録してもらおうという思考が必要ではないか。
- ・困難な状況になると地域福祉コーディネーターが全面的にスタッフ的な支援をする現状があり、途中でバトンを市民に渡すのは難しい。
あくまでも地域福祉コーディネーターのお手伝いという意識が抜けきれないからである。

<委員長>

- ・協働型地域福祉アンテナショップの展開に必要な武器がない状況であるという指摘は大変重要である。
- ・お金の面について、理想的にいうと活動者がファンドレイジングをしていく、お金をつくっていくことが望ましいが、そこからお願いするのはどうか。
- ・可能性があるかわからないが、基金をつくることはできないか。
例) 市民ファンドや基金を社協がつくる等

<事務局>

- ・立川市に行事保険の保険料を適用できないか予算要望を上げており打ち合わせをしている。
 - ・議会で通れば、来年度から協働型にも行事保険加入費用について補助ができるようになる。
 - ・基金については、社協でコロナ禍対応として創設した「地域支えあい寄付金・活動助成事業」で、今年度 28 件くらいの市民の互助活動に活用いただいている。
- 「地域支えあい寄付金・活動助成事業」は次年度も同様の寄付金を資源とした活動助成事業を構想しているが、協働型地域福祉アンテナショップの初期費用としても使えるように考慮していく。

<委員長>

- ・活動に必要なお金については既存のサポートを含めて支援があれば助かる。
- ・地域福祉アンテナショップの設置を進めるための武器については、ご指摘いただいたとおり引き続き検討が必要である。

<委員>

- ・農業について、農家は野菜の取り扱いについて課題を感じていることもある。
- ・みの一れに出品した場合、残ってしまうと夕方引き取らなければいけない。
- ・食べ物を無駄にしない、立川野菜を大事にするという観点から残った作物を地域に還元できないか。

<委員長>

- ・農家と福祉の連携だけでなく、作物を循環させていく仕組みが必要である。
- ・農福連携を核にした協働型地域福祉アンテナショップについて検討できないか。

<委員>

- ・学生団体の運営にかかわっているが、活動自体の持続が難しい。
 - ・保険料の支払いにお金がかかる。
 - ・人が来なくなるなど運営上の波がある。
- 運営に行き詰まった時に地域福祉コーディネーターからの連絡があると活動を続けていこうという気持ちになる

<委員>

- ・図書館法を勉強している。
- ・学校図書館は法律で学校教育をサポートすることは目的であるが、その業務に支障のない限りで一般開放していくことも定められている。
- ・本来の図書館業務の半分くらいしかできていない現状があり、それぞれの文脈で公的図書館、学校図書館の位置づけ直しが行われている。

<委員長>

- ・実態的に立川の図書館も開放していくことはできるのか。

<事務局>

- ・図書館について所管課に問い合わせる。

<委員長>

- ・海外では図書館は本を読むだけではなくゲーム、イベントができるなど広く学びの場となっており、日本との位置づけの違いを感じる。
- ・図書館の活用について何か、風穴をあけられないか。
- ・実際に立川の図書館で何かできないか仕掛けづくりができないか。
例) 図書館でごはんを食べる 孤立防止の仕掛けを組み込む。
- ・図書館の活用していくのはおもしろい視点ではないか。
- ・協働型地域福祉アンテナショップの一つとして展開していくこともできるのではないか。

<委員>

- ・チャットにて、議論の参考になる事例等について情報共有があった。

① 愛知県春日井市 15分フレックスカフェ

<https://www.fnn.jp/articles/-/426104>

② 瑞穂町図書館 居心地のよさを大切にした図書館

<https://project.nikkeibp.co.jp/hitomachi/atcl/study/00129/>

③ 兵庫県 電子居場所

<https://hyogo-hopstepjump.info/information/onlinespaces/>

④ 伊丹市立図書館 ことば蔵 市民企画書作成会

<https://www.city.itami.lg.jp/SOSIKI/EDSHOGAI/EDLIB/event/eventlist/31346.html>

⑤ 愛知県安城市 アンファーレ

https://www.tachikawa-shakyo.or.jp/2022/04/28/covid19_donation/
<https://youtu.be/1CccwdhJAUE?t=60>

⑥ 夜のパン屋さん

<https://yorupan.jp/>

⑦ 石川県立図書館

<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/>

⑧ 鳥取県立図書館「サポートの必要な家庭応援事業」

<https://www.library.pref.tottori.jp/support/index.html>

⑨ 地域支えあい寄付金

https://www.tachikawa-shakyo.or.jp/2022/04/28/covid19_donation/

【5. 今後のスケジュールについて】

<事務局>

- ・資料8にもとづき、今後のスケジュール確認を行った。

【6. その他】

- ・次回委員会は5月～6月に実施予定。
- ・4月に委員長が帰国するため、19時～21時の時間帯で調整する。